

### ■スタンションの影響は少ない

経産牛にしても育成牛(哺育牛)にしてもスタンション等の牛が幅の狭いところに首を突き出すタイプで行動を制御する方法は牛の肩端部で制御します。このため、首の幅や牛の太さには関係しますが、成長初期の育成段階において重要な体高にはあまり左右されません。

体高が一気に増高する育成初期は、横にネックレール方式では無く、首を突き出させる方式で飼養管理して頂きたいと思います。

狭い間隔に首を出すことに慣れた育成牛は、成牛になった後や預託先の施設においてもスムーズにスタンションに対応することができます。

基本的に肩端部をバーに当てて制御する。



### ■育成牛の成長を妨げないことが大事!

本来、牛は右写真のような自然な姿勢で菜食を行っていくつろいでいます。

カウコンフォートの取り組みと共に成牛に対する係留は注意されていますが、サイズや体型の変化が急激な育成牛に対する菜食時の姿勢チェックは忘れられがちです。もう一度注意してみてください。



事件は現場で起きています



## 「親は横に太るが、子は縦に伸びる」 ～育成牛の姿勢に気をつけて～

広酪事業推進課 係長 大島達夫

育成牛の飼養において、育成初期に急激な体高の伸びを実感されたことはありませんか？

過去には月齢と発情判断を優先に種付けされ、この結果、極端に小さい初産牛も見受けられました。しかし、近年では体高を目安に種付けをされる方も増え、そのような牛は減ってきています。今回は、育成牛の急激な発育時期における注意点を紹介します。

### ■哺育・育成体系はこれ！

全酪連の“強化”哺育・育成体系によるモデルは次のとおりです。育成牛は育成開始当初の2～3ヶ月間で体重も増加しますが、それ以上に体高は大幅に伸びます。

#### 【全酪連“強化”哺育・育成体系【哺育・育成期】】

週齢(満)	目標体重	体高	BCS
0	45kg	75cm	2.00
3	60kg		
4		81cm	
6	77kg		
8		88cm	
90日齢	120kg	95cm	2.25

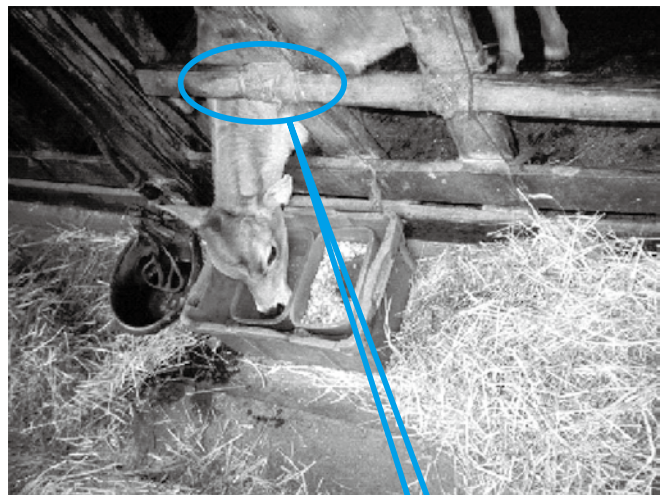
月齢(満)	目標体重	体高	BCS
3	120kg	95cm	2.25
6	195kg	108cm	2.50
春機発動	280kg	120cm	
10	295kg	122cm	2.75
14	401kg	130cm	3.00
分娩2ヶ月前	566kg	138cm	
分娩1ヶ月前	592kg	139cm	
分娩	618kg	140cm	3.50

### ■ネックレールが姿勢を乱す！

実際の哺育育成の現場では、育成牛の多くがネックレールタイプで制限されて飼養管理されています。適切な高さに調節がされておれば良いのですが、急速に体高が伸びる育成牛に調節が追いつかず低いネックレールからむりやり首をひねり出すようにして餌を食べたり水を飲んだりしている育成牛を散見することもあります。

成長初期に無理な姿勢で飼料の摂取を行わせると簡単に肩後背腺の落ち込みや肩の開きなどの体型のゆがみが発生します。

また、時にトワインやチェーン等で係留して飼養している場合、首を緩めるのを忘れ食い込んでいく仔牛がいることがあります。本当に仔牛は急速に成長します。注意してください。



首又は肩の上部をネックレールに当てて制御している。